



NTN 株式会社

2027 年 3 月期第 1 四半期 決算 IR 説明会

2026 年 8 月 4 日

イベント概要

[企業名]	NTN 株式会社
[企業 ID]	6472
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2027 年 3 月期第 1 四半期 決算 IR 説明会
[決算期]	2027 年度 第 1 四半期
[日程]	2026 年 8 月 4 日
[ページ数]	17
[時間]	17:00 – 17:28 (合計：28 分、登壇：18 分、質疑応答：10 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	4 名 取締役 代表執行役 執行役社長 CEO（最高経営責任者） 鵜飼 英一（以下、鵜飼） 取締役 代表執行役 執行役 CFO（最高財務責任者） 山本 正明（以下、山本）

グループ経営本部 コーポレート・コミュニケーション部長

長尾 立雄（以下、長尾）

グループ経営本部 コーポレート・コミュニケーション部

高下 和久（以下、高下）

[アナリスト名]*

大和証券

田井 宏介

野村證券

石本 渉

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、
SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

登壇

長尾：それでは定刻となりましたので、NTN 株式会社、2027 年 3 月期第 1 四半期決算 IR 説明会を開始いたします。本日はご多忙のところ、当社の決算 IR 説明会にご参加くださり、誠にありがとうございます。

初めに、出席者をご紹介します。執行役社長 CEO、鵜飼でございます。

鵜飼：鵜飼です。よろしくお願いします。

長尾：執行役 CFO、山本でございます。

山本：山本です。よろしくお願いいたします。

長尾：事務局は高下と私、長尾、いずれもコーポレート・コミュニケーション部所属でいたします。よろしくお願いいたします。

高下：よろしくお願いします。

長尾：本日の説明会は、ご登録いただいたメールアドレスにお配りした説明会の資料に沿ってご説明いたします。資料は弊社のホームページにも掲載しておりますので、お手元がない方はご確認をお願いいたします。

本日は、はじめに決算のポイントについて社長の鵜飼より説明し、そのあと詳細について CFO の山本より説明申し上げます。説明後、質疑応答を行い、18 時に終了の予定です。

それでは、鵜飼社長、よろしくお願いいたします。

鵜飼：改めまして NTN の鵜飼でございます。本日はお忙しい中、当社の決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また日頃より、株主、アナリストの皆様にはご支援をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

決算の説明に先立ちまして、7 月 28 日に発生した令和 8 年熊本地震によりお亡くなりになられた方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。当社グループでは、熊本県内に生産拠点および営業拠点はなく、現時点において、当社グループ従業員の人的被害や事業運営に影響を及ぼす施設・設備などの被害は確認されていません。

一方で、被災により生産活動や物流に影響を受けておられるお客様があり、その状況を確認し、サプライチェーンへの影響について精査を進めている段階です。今後、開示すべき重要な影響が判明した場合には、速やかにお知らせいたします。当社グループといたしましては、お客様や関係先との連携を図りながら、事業継続と安定供給に努めてまいります。改めまして、被災地の一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

それでは、2027年3月期第1四半期決算の内容をご説明いたします。決算内容および利益の増減分析などは、CFOの山本から説明しますので、私からは、決算のポイントについて説明します。

① 決算のポイント



2027年3月期 第1四半期(4月-6月)

売上高： 2,123億円（前年同期比+132億円）内、アフターマーケット向け 396億円（前年同期比 +44億円）
 営業利益： 83億円（ " +13億円）
 営業利益率： 3.9%（ " +0.4pt）

アフターマーケット向け売上高構成比18%→19%

ー 軸受他

売上高： 900億円 営業利益：30億円
 営業利益率：3.3% 前年同期比 増収増益
 ・ 産業機械、自動車向けが前年並みも、アフターマーケット向けが緩やかに回復、円安による為替の影響もあり増収。
 ・ 売価改善に加え、構造改革効果により増益。

ー CVJアクスル

売上高：1,223億円 営業利益：53億円
 営業利益率：4.4% 前年同期比 増収増益
 ・ 中国の日系自動車メーカーの不振・減産、米州・欧州の量産案件終了等の影響があるも、為替の影響により増収。
 ・ 売価改善や調達改革による変動費低減に加え、構造改革効果により増益。

2027年3月期 通期業績予想

2026年5月公表の 通期業績予想は据え置き

売上高： 8,100億円
 営業利益： 330億円
 営業利益率： 4.1%

日本精工株式会社との経営統合

- ・ 基本合意書（2026年5月12日締結）に基づきデューデリジェンスを実施中。基本合意締結後6か月を目途に最終契約締結の予定。
- ・ 2027年6月の定時株主総会(株式移転の承認決議)を経て、2027年10月に共同持株会社の設立を目指す。

©2026 NTN Corporation 2

2ページをご覧ください。売上高は2,123億円、営業利益は83億円、営業利益率は3.9%となりました。売上高は円安による為替の影響もあり、前年同期比で増収、営業利益は売価改善や変動費の低減、また構造改革の効果により、前年同期比で増益となりました。

アフターマーケットビジネスは、売上高396億円と前年同期比で44億円の増収となり、為替の影響を除いた物量でも増加し、売上構成比でも1ポイント上昇しました。

軸受他は、アフターマーケット向けの需要が緩やかに回復し、物量が増加、また売価改善や構造改革効果に加えて、円安による為替の影響もあり、売上高は900億円、営業利益は30億円、営業利益率は3.3%となり、前年同期比で増収増益となりました。

CVJアクスルは、中国における日系自動車メーカーの不振・減産が継続、また北米および欧州における量産案件の終了などの影響があり、物量が減少したものの、売価改善や調達改革による変動費

の低減、構造改革効果に加えて、円安による為替の影響もあり、売上高 1,223 億円、営業利益 53 億円、営業利益率 4.4%となり、前年同期比で増収増益となりました。なお、今期の業績予想は、期初の予想を据え置きます。

日本精工株式会社との経営統合につきましては、5 月 12 日に締結した基本合意書をもとに、デューデリジェンスを行っています。一連の統合関連費用は精査中ですが、現在の販売動向や利益改善状況であれば、期初の業績予想を見直す必要はないと考えています。

私からの説明は以上です。

長尾：鵜飼社長、ありがとうございました。続きまして、CFO の山本より、2027 年 3 月期第 1 四半期決算の詳細について説明します。山本 CFO、よろしくお願いします。

②2027年3月期 連結主要指標

NTN

(億円)	'26年3月期		'27年3月期		増減		
	1Q 実績 ①	通期 実績	1Q 実績 ②	通期 見通し	対 前年同期 ②-①	除く為替	為替
合計							
売上高	1,990	8,263	2,123	8,100	132	△ 30	163
営業利益 (率)	70 (3.5%)	310 (3.8%)	83 (3.9%)	330 (4.1%)	13 (0.4pt)	9	5
経常利益	40	235	64	210	23	20	3
特別損益	-	△ 83	△ 9	60	△ 9	△ 8	△ 1
親会社株主に帰属する 当期純利益	12	129	19	150	7	8	△ 0
棚卸資産	2,439	2,459	2,456	2,200	(※) △ 2	△ 24	21
フリー・キャッシュ・フロー	108	309	147	360	39	-	-
為替レート 1USD	144.6円	150.7円	159.3円	152.3円	14.7円		
1EURO	163.8円	174.7円	185.3円	177.6円	21.5円		
'27年3月期年間配当	13.0円		(中間6.5円・期末6.5円)				

(※)棚卸資産は'26年3月末よりの増減額

©2026 NTN Corporation

3

山本：ここからは山本が説明します。3 ページをご覧ください。

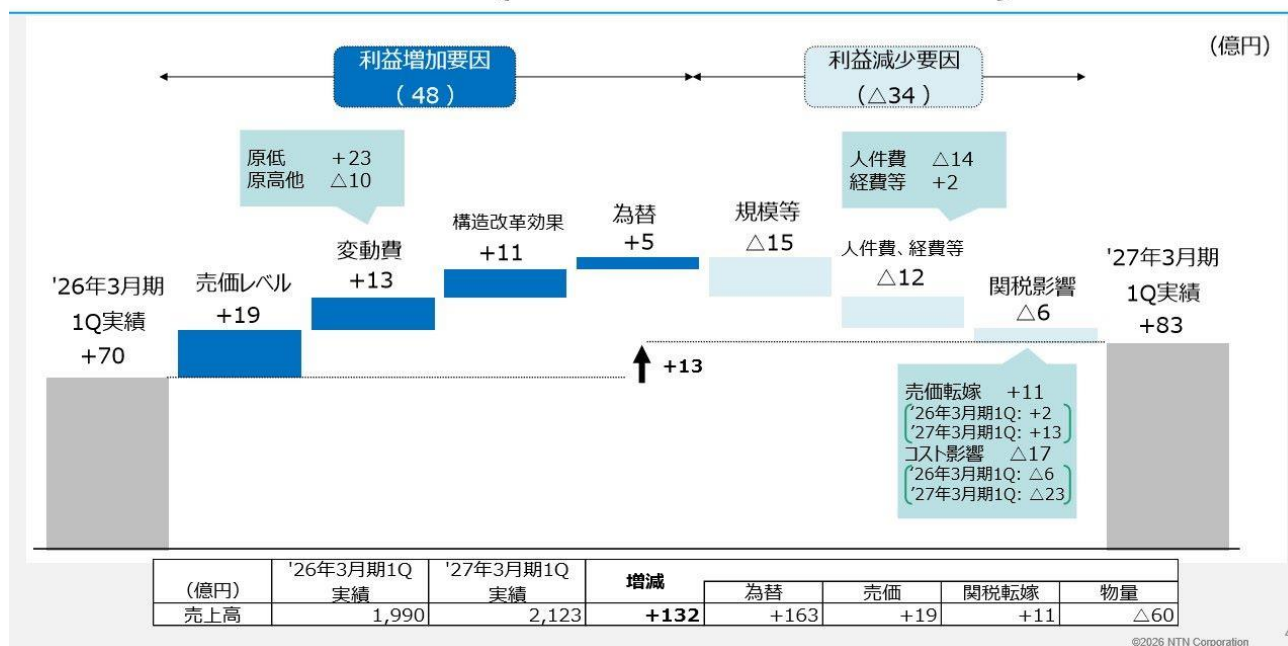
連結主要指標です。先ほど鵜飼から、売上高と営業利益のポイントの説明がありましたが、売上高は為替の影響を除くと前年同期比で 30 億円の減収、営業利益は同じく 9 億円の増益となりました。

また、経常利益は 64 億円となり、特別損益は米国での構造改革費用の計上を主因に 9 億円の損失。その結果、当期純利益は 19 億円となりました。営業利益の増減や棚卸資産、キャッシュ・フローの状況については後ほど説明します。

③営業利益増減

『26年3月期 1Q< 実績 >
vs 『27年3月期 1Q< 実績 >

NTN



4 ページをご覧ください。前年同期との営業利益増減分析の滝グラフです。

左端が前年同期の営業利益額、右端が当期の営業利益額です。グラフの下に、売上高の増減表がありますが、為替、売価などを除く物量では、前年同期比 60 億円の減収です。右側の利益減少要因は販売生産減などによる規模等マイナス 15 億円、人件費、経費でマイナス 12 億円、関税影響がマイナス 6 億円です。

一方、左側の利益増加要因は、売価レベルの向上プラス 19 億円、原低などによる変動費の良化プラス 13 億円、構造改革効果プラス 11 億円、これに為替の効果プラス 5 億円です。この結果、前年同期比で 13 億円の増益となりました。

④所在地別売上高(グループ内売上高除く)

NTN

(億円)	'26年3月期		'27年3月期		増減		
	1Q 実績 ①	通期 実績	1Q 実績 ②	通期 見通し	対 前年同期 ②-①		
					合計	除く為替	為替
日本	518	2,164	534	2,255	16	16	0
米州	644	2,625	691	2,505	47	△ 24	71
欧州	463	1,936	504	1,845	41	△ 15	56
アジア他	365	1,539	393	1,495	28	△ 7	35
合計	1,990	8,263	2,123	8,100	132	△ 30	163

©2026 NTN Corporation

5

5 ページをご覧ください。地域別の売上高です。

②-①の除く為替の増減欄をご覧ください。合計で 30 億円の減収ですが、先ほど説明した通り、売価レベルなどを除く物量では 60 億円の減収となりました。

地域別の物量ベースの増減を申し上げますと、日本でプラス 5 億円、米州でマイナス 41 億円、欧州でマイナス 15 億円、アジア他でマイナス 9 億円、うち中国がマイナス 7 億円となりました。

⑤事業形態別売上高・営業利益

NTN

(億円)		'26年3月期		'27年3月期		増減		
		1Q 実績 ①	通期 実績	1Q 実績 ②	通期 見通し	対 前年同期 ②-①		
						合計	除く為替	為替
売上高	軸受他	830	3,489	900	3,570	70	8	62
	CVJアクスル	1,161	4,775	1,223	4,530	62	△ 38	101
	合計	1,990	8,263	2,123	8,100	132	△ 30	163
営業利益	軸受他	23	123	30	145	7	4	3
	(率)	(2.7%)	(3.5%)	(3.3%)	(4.1%)	(0.6pt)		
	CVJアクスル	47	188	53	185	6	5	2
	(率)	(4.1%)	(3.9%)	(4.4%)	(4.1%)	(0.3pt)		
	合計	70	310	83	330	13	9	5
	(率)	(3.5%)	(3.8%)	(3.9%)	(4.1%)	(0.4pt)		

©2026 NTN Corporation

6

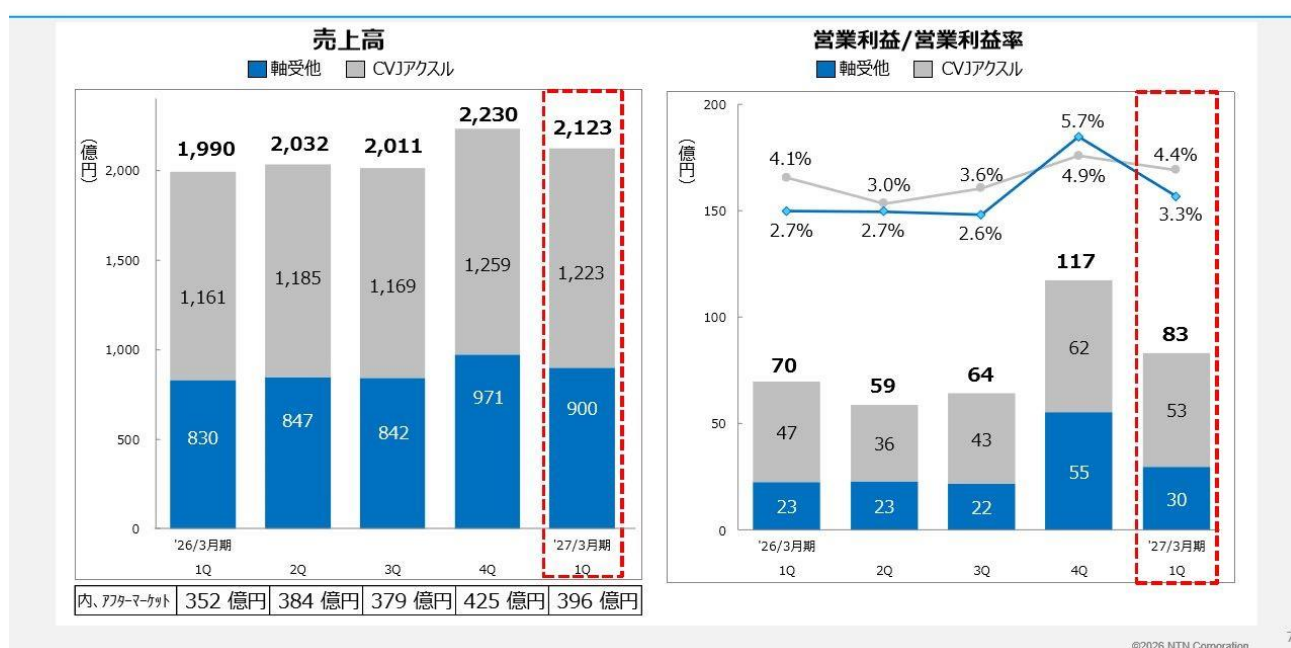
6 ページをご覧ください。事業形態別の売上高・営業利益です。

まず上段の売上高の増減②－①の除く為替の増減欄をご覧ください。この数値から売価レベルなどを除いた物量ベースでは、軸受他は前年同期並み、CVJ アクスルは 60 億円の減収です。

次に下段の営業利益ですが、軸受他については、人件費、経費の増加はありましたが、売価の向上、構造改革効果や為替のプラスにより 7 億円の増益、CVJ アクスルについては、規模減の影響はありましたが、変動費の良化や構造改革効果、為替のプラスなどにより、6 億円の増益となりました。

⑥事業形態別業績（四半期推移）

NTN



7 ページをご覧ください。事業形態別の売上高と営業利益/営業利益率の四半期別推移です。前期の第 4 四半期との比較で説明します。

まず左の売上高のグラフですが、軸受他の売上高は、第 4 四半期の 971 億円から 900 億円となり、71 億円の減収ですが、為替と売価の影響を除く物量ベースでは 78 億円の減収となりました。

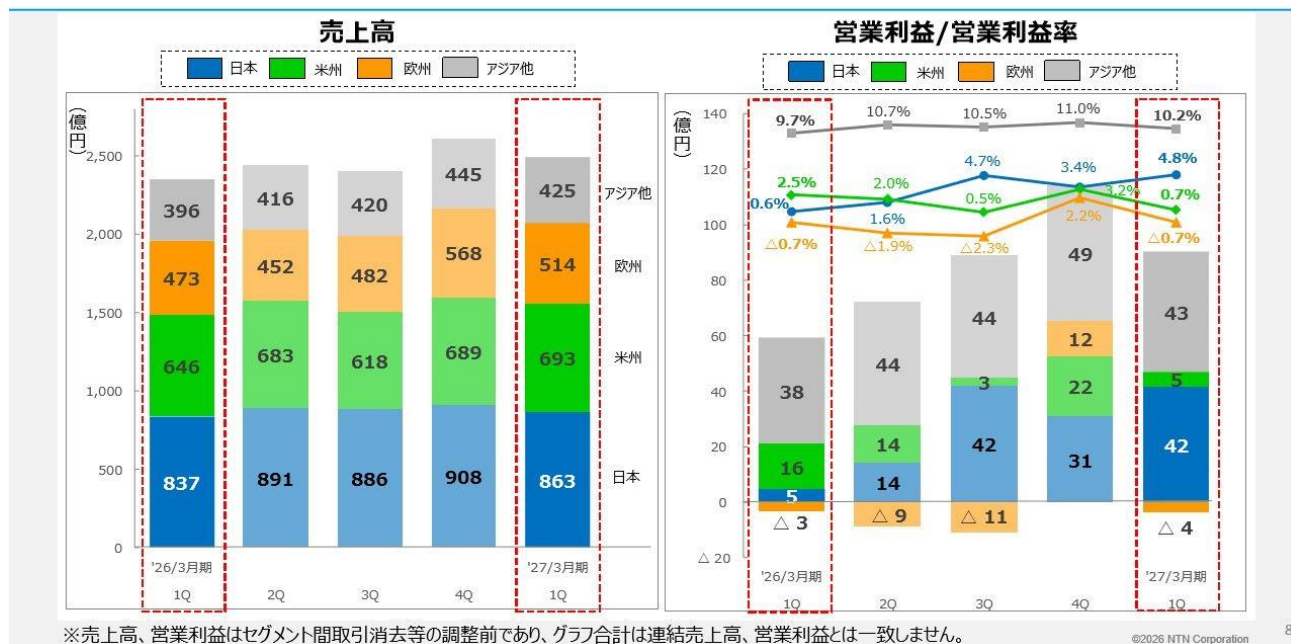
営業利益は、構造改革効果や固定費の圧縮などはありませんでしたが、規模減の影響を主因に 25 億円の減益となりました。

CVJ アクスルの売上高は第 4 四半期の 1,259 億円から 1,223 億円となり、36 億円の減収ですが、為替と売価を除く物量ベースでは、52 億円の減収となりました。

営業利益は、構造改革効果や売価レベルの向上はありましたが、規模減の影響を主因に 9 億円の減益となりました。

⑦所在地別 売上高・営業利益（四半期推移）

NTN



8 ページをご覧ください。所在地別、売上高・営業利益の四半期別推移です。

前年同期との比較で説明します。まず、左の売上高のグラフをご覧ください。青色の日本の売上高は、前年同期の 837 億円から 863 億円と、26 億円の増収ですが、為替と売価を除く物量では 9 億円の減収でした。

次に緑の米州は、同じく 646 億円から 693 億円と、47 億円の増収ですが、物量では 36 億円の減収。オレンジ色の欧州は 473 億円から 514 億円と 41 億円の増収ですが、物量では 21 億円の減収。また、グレーのアジア他は、396 億円から 425 億円と 29 億円の増収ですが、物量では 16 億円の減収となりました。

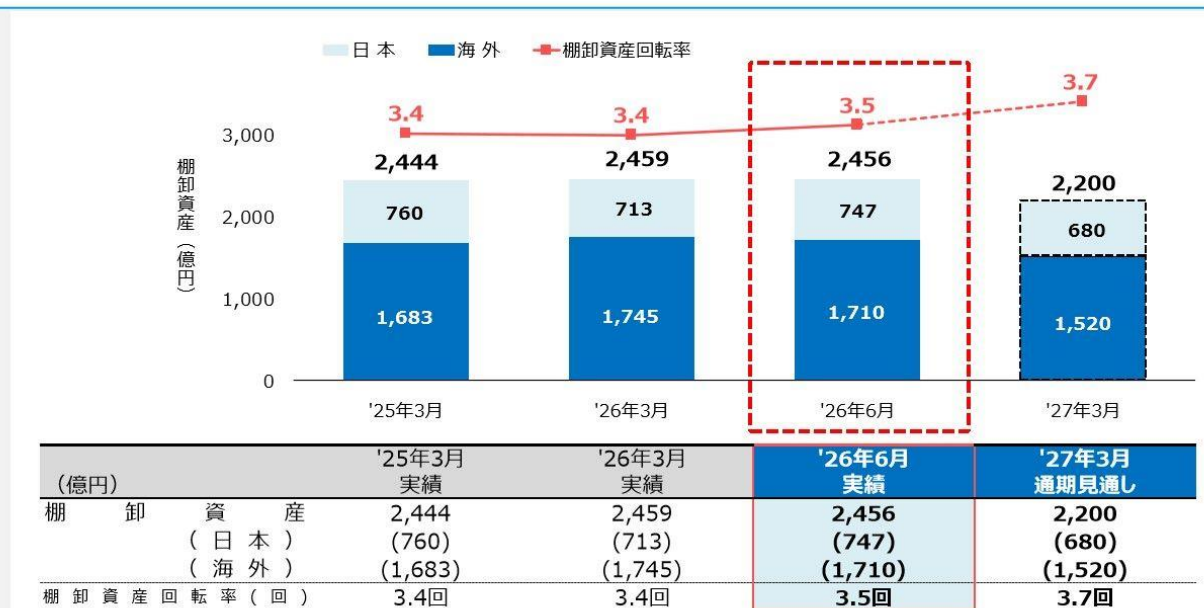
次に、右側の営業利益のグラフをご覧ください。青色の日本の営業利益は為替のプラスや売価レベルの向上などにより、前年同期比 37 億円増益の 42 億円となりました。緑の米州の営業利益は、構造改革効果や変動費の良化はありましたが、規模減の影響をカバーできず、前年同期比 11 億円減益の 5 億円となりました。

次にオレンジ色の欧州の営業利益は、構造改革効果や変動費の良化はありましたが、やはり規模減の影響をカバーできず、前年同期比 1 億円減益のマイナス 4 億円となりました。最後にグレーのア

ジア他の営業利益は、規模減の影響を変動費の良化や為替のプラスでカバーし、前年同期比 5 億円増益の 43 億円となりました。

⑧棚卸資産

NTN



©2026 NTN Corporation

9

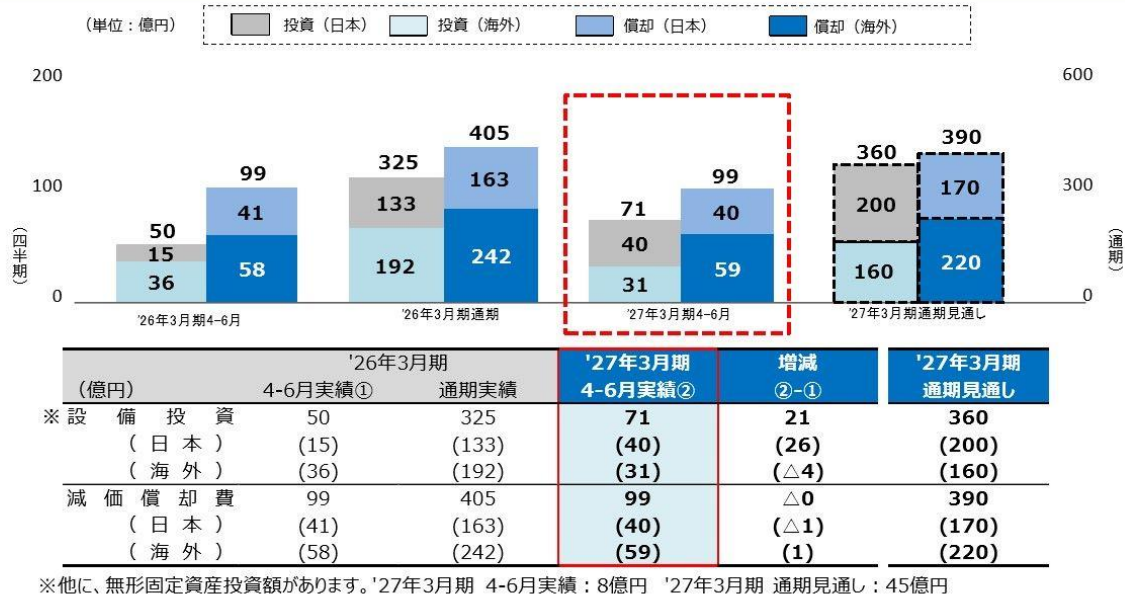
9 ページをご覧ください。棚卸資産の状況です。

26 年 6 月末の棚卸資産残高は、2,456 億円、前期末比 3 億円の減少ですが、為替の影響がプラスで 21 億円あり、物量では 24 億円の削減、回転率は 3.5 回となりました。

2027 年 3 月末の公表値 2,200 億円、回転率 3.7 回の達成に向け、引き続き在庫削減を進めます。

⑨設備投資・減価償却費

NTN



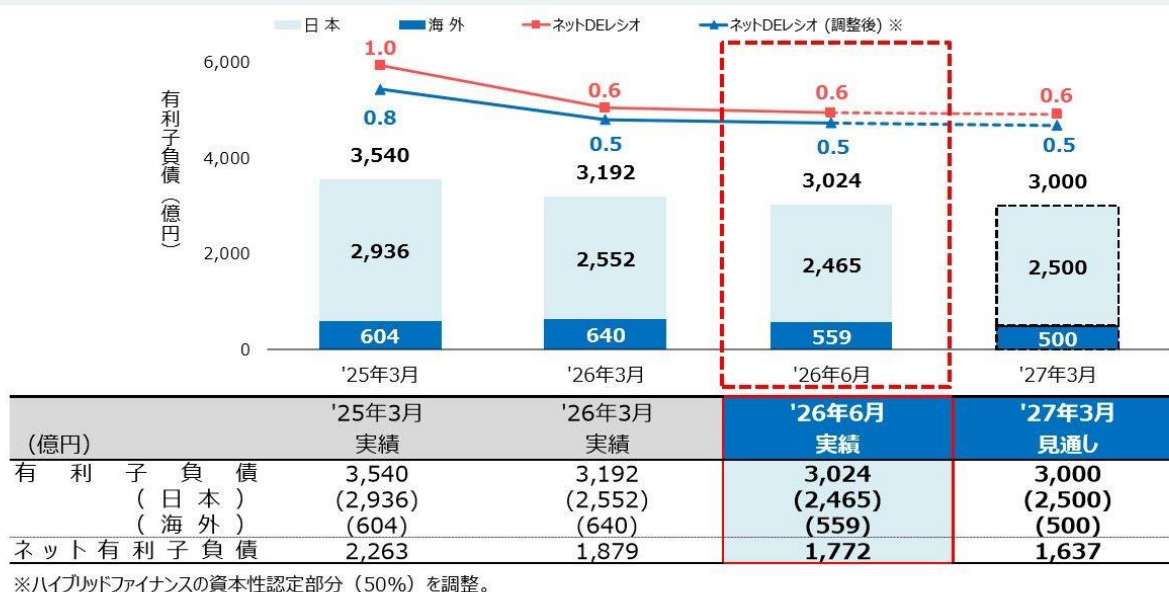
10 ページをご覧ください。設備投資と償却費の推移です。

第1四半期の設備投資額は71億円、減価償却費は99億円となりました。設備投資に若干の遅れはありましたが、投資額、償却費ともに通期見通しの線上と考えております。

なお、設備投資額71億円の所在地別の内訳を申し上げますと、国内が40億円、米州が3億円、欧州が16億円、アジア他12億円、うち中国が1億円です。

⑩有利子負債

NTN



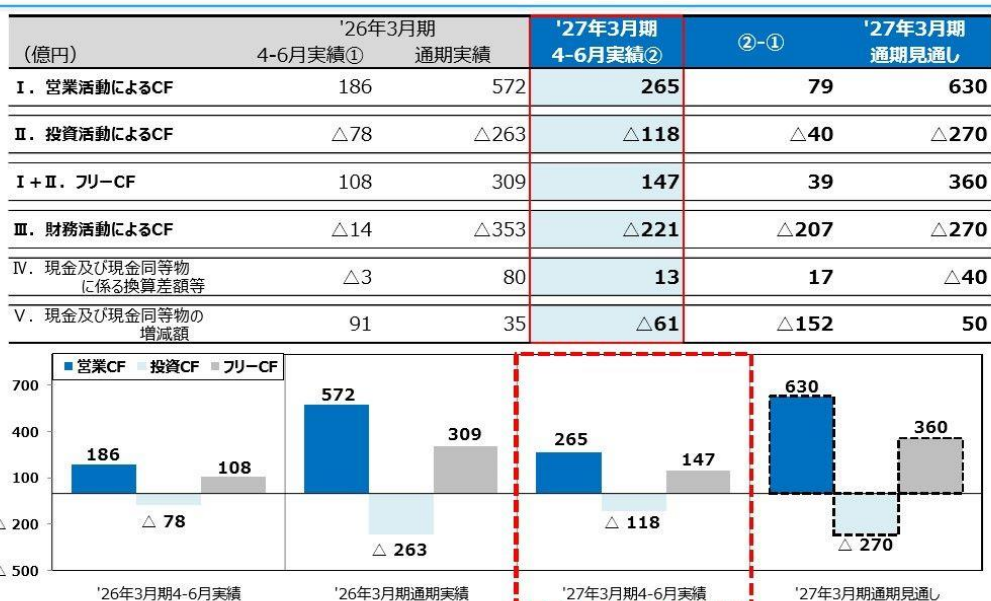
11 ページをご覧ください。有利子負債の推移です。

26 年 6 月末のネットの有利子負債は 1,772 億円で、前期末比 107 億円の減少となりました。また、ネット D/E レシオは前期比横ばいの 0.6 となりました。

下期に向かって、引き続きネット有利子負債の削減を進めます。

⑪キャッシュ・フロー

NTN



©2026 NTN Corporation

12

最後に 12 ページをご覧ください。キャッシュ・フローの推移です。

第 1 四半期の営業キャッシュ・フローは前年同期比プラス 79 億円の 265 億円、フリー・キャッシュ・フローは同じくプラス 39 億円の 147 億円となりました。

通期目標であるフリー・キャッシュ・フロー360 億円に対し、順調な進捗と考えております。

私からの説明は以上です。

長尾：山本 CFO、ありがとうございました。

質疑応答

長尾 [M]：それでは質疑応答へ入ります。

ご質問ありがとうございます。大和証券の田井様、ご質問をお願いいたします。

田井 [Q]：田井です。一つだけです。

例の統合に向けて、何かアップデートをお話いただけることがございますかということですけど。多分何もないような気がしますが、コスト面で言えば NSK が 50 億円の費用を積んで、御社は特に今回何もなかったですけど。そのあたり何か御社側はどうですかという、ちょっとばくっとしたお話ですが、その点も含めて、少し年末に向けて何か新しいお話いただけることないかなと思っての質問でございます。

鵜飼 [A]：ありがとうございます。鵜飼でございます。

まず今、デューデリジェンスを始めまして、それぞれのクリーンチームがいろんな機微情報の交換を始めたところでございます。NSK さんは一応 50 億と数字を出されていますけれども、われわれもこれぐらいの幅で必要だなというところを今、精査をしているところです。

今日ご説明しましたように、今の現在の状況を見越しますと、その費用は十分に吸収できるこの年度になるのかなというところが、今の時点でございまして。具体的な数値情報がなくて申し訳ないのですが、まだそういう状況でございます。山本さん、もし何か補足があれば。

山本 [A]：今、鵜飼から説明があった通りでございまして、上期と下期で、どのぐらい出るかタイミングの問題はまだわからないんですが、50 億円よりももしかしたら若干安いかなというイメージです。そのぐらいであれば今の販売動向、それから為替の状況、これであれば吸収できるかなとは考えております。

鵜飼 [A]：特に今年度と来年度、この両方の年度にかかってきますので、そこを今山本が申し上げた数字感のところが、下期から来年度にわたって発生してくるとは考えております。

田井 [M]：なるほど、わかりました。すみません、ちょっとデリケートな話で。大丈夫です。以上です。ありがとうございました。

鵜飼 [M]：ありがとうございました。

山本 [M]：ありがとうございました。

長尾 [M]：田井様、ご質問ありがとうございました。野村證券の石本様、ご質問、よろしくお願いいたします。

石本 [Q]：こんにちは。お世話になります。野村證券、石本です。よろしくお願いいたします。

2点ございまして。不勉強で恐縮ですが、日本の売上に対して利益の伸び方が結構 YoY で見ると大きく増益しているようにも見えますので、こちらどういったことが背景でここまで伸ばされたのか。物量に関しては若干の減少だというところがありますので、こちらの中身、どういった形でここまで増益できたのかを確認させてください。

もう1点が、直近の中東情勢の影響で結構金属価格とかも上がってきていると思いますが、そちらの出方が Q1 に関してはどれぐらい影響が、Q2 以降どういった形でグロスの影響が出てきて、価格の転嫁がどういった形で進んでいくのか。少しご解説いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。

山本 [A]：それではまず日本の利益の出方について、山本からご説明いたします。

売上高が 26 億円増えて、そのうち為替の影響がプラス 24 億円、それから売価でプラスの 11 億円。よって物量ではマイナス 9 億円。これが売りの状況でございました。

一方、営業利益ですが、前年同期からプラスで 37 億円、うち、為替が先ほど申し上げた 24 億円が丸々利益に効いていきますので、あと売価レベルのプラス 11 億円、こういうところで、日本の利益が 5 億円から 42 億円、プラス 37 億円改善したと。これがまず一つ目の質問のお答えですが、よろしいですか。

石本 [M]：わかりました。ありがとうございます。

山本 [A]：それから二つ目、全体感として利益の増減分析のところでお知らせしましたけど、まず全体感として、変動費はしっかりプラスにきております。このうち原高他でマイナス 10 億円がございしますが、第 1 四半期では中東情勢は大体マイナス 1 億円弱ぐらいの効きになっております。

ただ、第 2 四半期、下期、こういうところも効いてきますので、ここについては売価への転嫁、これを進めていく形になります。よろしいでしょうか。

石本 [Q]：はい。補足で申し訳ないです。そうすると、通期のご計画の中には今回修正されてらっしゃらないと思いますけれども、中東情勢影響はどれぐらい今、見込まれてらっしゃるのかと、あと転嫁はおおむねできるというご前提で組まれてらっしゃる形なのか。この 2 点、最後確認させてください。

山本 [A]：今現状わかっております原価への影響が、通期で 10 億円強、11 億円程度出てくるかなと見ておりまして、それは売価転嫁で吸収できると考えております。

石本 [M]：わかりました。ありがとうございます。以上です。

山本 [M]：ありがとうございます。

長尾 [M]：石本様、ご質問ありがとうございました。

それではご質問もないようですので、予定していたお時間より少し早いですが、以上をもちまして弊社 NTN 株式会社、第 1 四半期の決算 IR 説明会を終了いたします。

本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

鶴飼 [M]：ありがとうございます。

山本 [M]：ありがとうございます。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、株式会社 JPX 総研（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。